

介護福祉科における卒業時共通試験の取り組み

— 学科FD活動の一環としての卒業時共通試験 —

松 壽 久 実 小 熊 順 子 嶋 田 美 津 江
城 正 子 横 尾 恵 美 子 山 本 み よ 子

キーワード：卒業時共通試験、FD活動、教育活動の成果

- 1 はじめに
 - 2 平成17年度の取り組みと成果
 - 3 学生のアンケートの分析
 - 4 今後の課題
- 資料
- ①平成17年度卒業時共通試験 対策講座用の解説資料
 - ②模擬試験実施後の学生配布用の出力内容
 - ③卒業時共通模擬試験の分野別の正答率の分析
 - ④低い正答率の問題
 - ⑤問題別の正答率の選択肢の分布
 - ⑥アンケートの内容
 - ⑦学生アンケートの自由記述の内容
 - ⑧平成18年度の取り組み 本年度の取り組みについて説明

1 はじめに

介護福祉科では、2年間の学内の授業と学外の実習を通して学んだことをきちんと学生に身に付けさせたいと努力してきた。2年生の後期に行われる介護福祉科の取り組みのなかで、研究レポートの作成指導と12月の発表、2月の卒業時共通試験は、重要な指導の機会である。学科では、卒業時共通試験に学生全員を参加させ、6割以上という合格点を取らせることを目標に、

城学科長の下で全教員が努力してきた。

現在は、介護福祉士の養成校では卒業とともに自動的に資格が与えられているが、将来は現在の看護師のように試験の合格が介護福祉士の資格要件になる可能性も考えられるので、学科としては、取り組みが必要である。しかし、年々、学生の学力が低下しているなかにあつて、知識を身に付けさせることがますます難しくなっている。試験では、2年間の介護福祉科の教育で学ぶテーマが幅広く出題されている。明確な目標を掲げて努力することは、教員の教育活動の成果を目に見える形で検証することにもなる。その意味で、この試験の取り組みは、極めて意義の高い学科のFD活動である。

実技を伴う介護技術は、理論と実技で学生に繰り返し確認することができるが、医学一般や精神保健のように、講義で説明されるだけで、実技等でその理論を確認する作業が困難な科目もある。表1で示しているような13科目という広い分野からの出題に対して、学生が諦めることなく、努力するように指導することは、極めて難しいことである。

2005年度からは、これまでの模擬試験だけでなく、補講をして実力をつけることにした。この補講に学生を参加させることが、通常の状態ではいかに難しいかということは、学生指導に努力している教員であれば、容易に理解されることであろう。

表1 卒業時共通試験の出題数と分野

分野名	問題数
社会福祉概論	8
老人福祉論	10
障害者福祉論	4
リハビリテーション論	4
社会福祉援助技術	8
レクリエーション活動援助法	6
老人・障害者の心理	8
家政学概論	8
医学一般	12
精神保健	4
介護概論	8
介護技術	20
形態別介護技術	20

幅広い分野の学習を求められているにも拘わらず、学生が参加しているのは、学生の知識欲だけではなく、教員が実習を含めて普段からどのように学生に関わっているかが問われるのであり、学生指導の結果でもある。

2 平成17年度の取り組みと成果

2.1 平成17年度の取り組みの特徴

平成17年度からは、後期に火曜日5時限を対策の講座にあて、知識を整理し定着させる努力をしてきた。後期には、介護福祉科の教員は、介護福祉士の国家試験の実技講習の講師の仕事もあり、前年よりも多忙となっていた。その意味では、前年度同様に模擬試験だけで学生に自分の学力を認識させて、自習を促すだけにしかたつたのであるが、「模擬試験によって学生の学力が本当に伸びるのか」という疑問が教員の間からおき、試みとして、補講を試みようということになったのである。

表2 17年度後期の補講の取り組み

回数	月日	担当者
第1回	10月11日	山本
第2回	10月18日	横尾
第3回	10月25日	嶋田
第4回	11月1日	城
第5回	11月8日	小熊
第6回	11月15日	松寄
第7回	11月22日	松寄
第8回	11月29日	山本
第9回	12月6日	小熊
第10回	12月13日	嶋田
第11回	12月20日	横尾

また、12月と1月には、過去の本試験を使って、模擬試験を行った。この模擬試験に当たっては、前年16年度の実績から、資料④のように正答率の低い問題、学生の理解が不十分な問題が分かっている。また、どのように誤答が導かれるのかも、資料⑤のようにデータが作られている。本年度は、この過去のデータをもとに、正答率の低い問題については、資料①で示すような

丁寧な解説を用意して、自習が可能なようにした。この解説は学生のためだけでなく、学生がどのように間違えるのかを教員が知ることは、講義等に反映することのできる重要な情報であるからである。

この模擬試験では、コンピュータを使う採点を行い、学生には資料②に示すような講評を加えて返却し、学生に各自の不得意分野をきちんと理解させることに努めている。

2.2 取り組みの成果

本年度の合格者数、合格率は、昨年度を大きく上回り、2倍に近い水準になった。これは、本年度の問題が昨年に比べて易しくなったこともあるだろうが、非常勤の先生方を含めた教員の努力、あわせて学科全体で取り組んできた成果であると考えられる。

表3 卒業時共通試験の合格者数と割合の変化

	16年度		17年度	
	実数	割合	実数	割合
合格	27	26%	45	45%
不合格	77	74%	54	53%
欠席			2	2%
総計	104	100%	101	100%

学科の教員にとって悦ばしかったことは、単に合格点を超える学生が増えただけでなく、全体的に得点が上昇し、不合格であった学生も「あと〇点とったら、合格だったのに、悔しい」と言うようになったことである。学生の得点の分布を示す表4が示すように、合格点を取った学生は5割弱であるが、あと4、5点で合格点に達する得点の範囲に約2割の学生がいる。もう一步の学生にいかにも合格の実力をつけさせるか、それは教員のこれからの課題である。そして、次の目標がこうした分析から見えてきているといえる。

なお、本試験当日の試験で6割未満だった学生には、試験を再度受験させ、全員が6割以上になるように指導している。

表4 卒業時共通試験の得点分布

分布	人数	割合
20-24	1	1.0%
35-39	2	2.0%
40-44	3	3.1%
45-49	1	1.0%
50-54	4	4.1%
55-59	8	8.2%
60-64	9	9.2%
65-69	21	21.4%
70-74	11	11.2%
75-79	16	16.3%
80-84	15	15.3%
85-89	5	5.1%
90-94	2	2.0%
総計	98	100.0%

分野別の正答率を表5からみると、介護概論、介護技術、形態別介護技術という狭義の介護学分野は高くなっている。実習を含めた日常の指導の成果であろう。他方、医学一般や障害者福祉論は、正答率が低くなっている。障害者福祉論は、問題数も少なく、学生が準備しづらい分野であるが、医学一般は、問題数が12と重要な分野であるし、現場でも極めて大切な知識である。にもかかわらず、正答率が低いことは、正確な知識が身につけていないということであり、大きな反省点である。

学科会議や非常勤講師との打ち合わせ会では、こうした資料が示す情報を共有する努力をしている。ひとつ残念であるのは、非常勤講師の打ち合わせ会への参加者が少なく、学生の学力の状態について、そして、この試験について、学科の姿勢がどの程度まで非常勤講師の先生方に理解されているか、不安なことである。

表5 卒業時共通試験の分野別の正答率

分野名	正解数	回答数	正答率
社会福祉概論	375	784	47.8
老人福祉論	402	979	41.1
障害者福祉論	152	392	38.8
リハビリテーション論	163	392	41.6
社会福祉援助技術	425	784	54.2
レクリエーション活動援助法	366	587	62.4
老人・障害者の心理	423	783	54.0
家政学概論	390	783	49.8
医学一般	407	1,164	35.0
精神保健	249	388	64.2
介護概論	585	776	75.4
介護技術	1,426	1,939	73.5
形態別介護技術	1,407	1,940	72.5

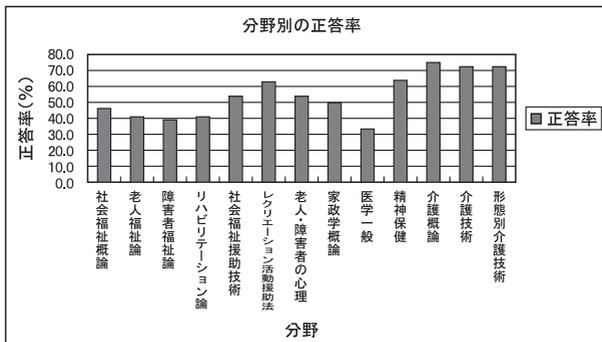


表6 正答率の分布毎の問題数

正答率	問題数	問題数累計
0%以上-10%未満	2	2
10%以上-20%未満	6	8
20%以上-30%未満	12	20
30%以上-40%未満	14	34
40%以上-50%未満	11	45
50%以上-60%未満	16	61
60%以上-70%未満	15	76
70%以上-80%未満	15	91
80%以上-90%未満	19	110
90%以上-100%未満	10	120
総計	120	

非常勤講師との打ち合わせの会では、表6が示すような正答率が低い問題の解説を科目の担当の先生方に書いていただくようお願いした。

3 学生のアンケートの分析

卒業時共通試験の取り組みを振り返り、より良い指導を行うために、平成17年3月に、卒業時共通試験を受験して1ヶ月が経過している学生に対して、資料⑥に示しているアンケートを実施した。以下、このアンケートを分析して、今後の指導に反映させていきたい。

3.1 アンケートに現れた学生の評価・努力

過半数の学生が卒業時共通試験について、1年生の間に知っているが、合格点が6割であることを知るのは、ほとんどが、2年生になってからである。この試験だけが、学科の指導の目標ではないので、細かな点について理解が遅れるのはいたしかたないが、全体の問題数や合格点という基本的なことについては、もっと早い段階から情報を提供しておく必要がある。

表7 設問1の回答の分布

設問1 「あなたが卒業時共通試験について知ったのはいつですか」

選択肢	入学時	1年次の前期	1年次の後期	2年次の前期	その他	総計
回答数	9	10	32	33	3	87
割合	10.3%	11.5%	36.8%	37.9%	3.4%	100.0%

表8 設問2の回答の分布

設問2 「あなたが合格点が6割であることを知ったのはいつですか」

選択肢	入学時	1年次の前期	1年次の後期	2年次の前期	その他	総計
回答数	0	15	14	56	2	87
割合	0.0%	17.2%	16.1%	64.4%	2.3%	100.0%

表9 設問3の回答の分布

設問3 「共通試験の具体的な問題や問題数を知ったのはいつですか」

選択肢	入学時	1年次の前期	1年次の後期	2年次の前期	その他	総計
回答数	0	4	11	70	2	87
割合	0.00%	4.60%	12.64%	80.46%	2.30%	100.00%

現在の制度では、本学の卒業とともに自動的に介護福祉士の資格は与えられており、資格要件ではない。合格を卒業の条件にすると、学科のなかで定めている緩やかなものである。幸いなことに、学生達は、教員の熱意を汲んでくれて、合格を重要な目標にしてくれている。

表11に見られるように、学科が設定した目標に最初から悲観的な学生が2割もいることは、残念なことであるが、私達はこうしたことを前提に指導しなくてはならない。

表10 設問4の回答の分布

設問4 「共通試験について試験に合格しなくては介護福祉士の資格がえられないと思いますか」

選択肢	そう思う	わからない	そう思わない	その他	総計
回答数	60	17	8	2	87
割合	68.97%	19.54%	9.20%	2.30%	100.00%

表11 設問5の回答の分布

設問5 「あなたは6割の合格点をとることができると予想しましたか」

選択肢	できると予想した	予想がつかなかった	できないと予想した	総計
回答数	20	48	19	87
割合	22.99%	55.17%	21.84%	100.00%

学生の努力も到達可能性と関係しているであろう。努力しなかった学生が2割もいることは、今後の指導の大きな反省点である。最初の1回だけの参加がやはり2割もいることも、早い段階で知識の整理と復習することを断念していることで、6割の合格という目標だけでなく、各自の学力にあった目標の設定が必要であるかもしれない。

講座をやった効果については、3割の学生が「とても効果があった」と回答し、4割の学生が「すこしあった」と回答している。次年度は、5割の学生が「とても効果があった」と回答してくれるように、教員として努力したい。火曜5時限という、学生にとっては朝からの講義で疲れている状態での参加で、良い時間ではなかった。1割の学生しか、曜日と時間について「と

でも良かった」と回答していないことを反省の手がかりとしたい。

表12 設問6の回答の分布

設問6 「あなたは共通試験について努力しましたか」

選択肢	とても努力した	少し努力した	努力しなかった	回答なし	総計
回答数	22	49	15	1	87
割合	25.29%	56.32%	17.24%	1.15%	100.00%

表13 設問7の回答の分布

設問7 「秋に火曜4時限に実施した共通試験講座への参加について」

選択肢	毎回	1回だけ	時々	回答なし	総計
回答数	16	14	48	9	87
割合	18.39%	16.09%	55.17%	10.34%	100.00%

表14 設問8の回答の分布

設問8 「講座の復習や自習など講座以外に何時間勉強しましたか」

時間数	回答数	割合
0	10	17.5%
0.5	1	1.8%
1	5	8.8%
2	6	10.5%
3	10	17.5%
4	1	1.8%
5	14	24.6%
6	2	3.5%
10	5	8.8%
13	1	1.8%
18	1	1.8%
20	1	1.8%
計	57	100.0%

表15 設問9aの回答の分布

設問9a 「共通試験講座について、効果はありましたか」

選択肢	とてもあった	すこしあった	なかった	回答なし	総計
回答数	24	37	14	12	87
割合	27.59%	42.53%	16.09%	13.79%	100.00%

表16 設問9 bの回答の分布

設問9 b 「実施時期はよかったですか」

選択肢	とても良かった	まあ良かった	良くなかった	回答なし	総計
回答数	7	57	19	4	87
割合	8.05%	65.52%	21.84%	4.60%	100.00%

表17 設問9 cの回答の分布

設問9 c 「実施曜日・時間はよかったですか」

選択肢	とても良かった	まあ良かった	良くなかった	回答なし	総計
回答数	4	41	36	6	87
割合	4.60%	47.13%	41.38%	6.90%	100.00%

4 今後の課題

この試験に合格点が取れる実力をもっていることは、学科が育てようとする介護福祉士の目標のひとつにしかすぎず、学科は様々な角度から学生の成長を促してきた。とはいえ将来、卒業時の試験の合格が資格を与える条件になる可能性もあり、学科として学生を知的にも育てることは、重要な課題である。

学力の低下のなかで、如何にして学生に高い目標に対して動機付けさせ、努力させるのか、教員の力量が求められている。

学科では、試験の問題と正答を分析している。正答率が30%未満という極めて正答率が低い問題がある。学科では、常勤の教員がこの問題を分析するとともに、非常勤の教員にも、こうした問題別の正答率と学生の解答の状態の資料を配布し、分析することを依頼している。

この資料の分析によって、教員は学生がどのように間違えているかを知ることが出来る。それは、自らの教育活動を振り返ることにもなるだろう。

学科として、専門職にふさわしい知識を身に付けた介護福祉士を養成し、社会に送り出したいと考えている。

6割の合格点という目標は、学生の実態を考えると、かなり高い目標で

ある。しかし、この目標に向かって努力することによって、学科の教員の教育力も高められるだろう。学生の学力をつけること、教員の教育力を向上させるために、努力を続けたい。資料⑧で示しているように、本年度も計画的に指導する予定である。

また、本報告では割愛されているが、個別学生の分野別の得点など、学生の学力についての基本的なデータが蓄積されている。こうしたデータをより詳しく分析することによって、これからの教育に生かしていきたい。データを活用することもこれからの課題である。

資料① 平成17年度卒業時共通試験 対策講座用の解説資料

平成17年度卒業時共通試験 対策講座

平成18年1月14日実施

平成16年度卒業時共通試験から出題 正答

難解問題の解説

以下の解説は、昨年度の卒業生に実施したときの成績が悪かった問題について、誤解の背景を考えて、解説を加えたものです。学習の参考にして下さい。

社会福祉概論

問題3 正答1

B 土木・教育費の比率は年々減少しているが、民生費は増加している。

(中央法規 社会福祉概論 テキストP.124を参照)

C 共同募金は都道府県共同募金会が実施している。

(中央法規 社会福祉概論 テキストP.61、P.128を参照)

問題8 正答4

4 社会福祉事業者同士による競争を制限していない。多様な事業主体参入の促進を図っている。(中央法規 社会福祉概論 テキストP.52～53を参照)

障害者福祉論

問題19 正答5

「障害者実態調査」は国(厚生労働省)が5年に1回実施しています。

選択肢4を選択している人が最多ですが、「地方障害者施策推進協議会」は都道府県のみで、市町村は入りません。

問題21 正答1

A・Bが正しい。

選択肢5を選択している人が最多で、Cも正しいとして考えていますが、補装具は在宅だけではなく施設に入所している場合も貸与されるし、中度・軽度の身体障害者にも貸与されますので誤っています。

問題22 正答3

選択肢5を選択している人が最多で、Cも正しいとして考えていますが、重症心身障害児施設は「児童福祉法」の第43条の4に基づいて設置されています。

介護概論

問題77 正答5

Aは誤り。バイタルサイン測定による入浴の可否を判断するのは、医療従事者の役割です。入浴前後に平常と異なる状態を医療従事者に連絡することは義務です。この項目は、ひっかけ問題ですから、注意深く文章を読み取ることが大

切です。

Bは誤り。本来、病名・病状・治療計画の説明をするのは、医師の説明義務です。

Cは誤り。センターの実施主体は市町村であり、社会福祉法人・医療福祉法人・民間事業者に事業委託しています。このセンターが、地域での保健と福祉の総合的なサービス調整の役割を担っています。

介護技術

問題89 正答 1

選択肢1 長湯をすると、血圧上昇による立ちくらみをおこすことがある。

↓

と記述されているが、正しくは「低下」です。

寒い脱衣場や浴室に入ると血管は収縮して血圧は上昇するが、その後長湯をすると、温熱効果で血管が拡張して血圧は急激に低下するため、立ちくらみをおこすことがあります。

また、入浴すると発汗によって、血液の粘度が高まり、「どろどろの血液」になるので、入浴前と入浴後の水分補給が必要となります。

形態別介護技術

問題112 正答 3

Aについて

繊維の多い食品は、ガスや臭いを発生しやすく、また、人工肛門のストーマ（穴）を塞いでしまう場合があるため、適切ではない。食べる時は、量や形状（小さくする、細かくきざむ）などの工夫が必要となります。

Bについて

膀胱留置カテーテルは、膀胱に直接カテーテル（管）を入れ、排尿するものであるが、車椅子に座った状態で膀胱の位置よりも高い位置に蓄尿袋を置くと、膀胱からの尿の流れがスムーズでなくなるため、できるだけ低い位置に置くことが望ましい。

Dについて

物取られ妄想については、否定せず、Bさんの気持ちを受け止め、一緒に探す、場の雰囲気を変える等のかかわり方の工夫をします。

資料②

模擬試験実施後の学生配布用の出力内容

合計点	65
-----	----

合 否	不合格
-----	-----

不得意分野を勉強して、
再試験に備えて下さい！

問題番号	解答	正誤
第 1 問	2	×
第 2 問	2	○
第 3 問	4	×
第 4 問	4	×
第 21 問	4	○
第 22 問	3	×
第 23 問	2	×
第 24 問	1	○
第 25 問	2	×
第 26 問	5	○
第 27 問	1	○
第 28 問	3	×
第 29 問	2	×
第 30 問	2	×

備考：得点に応じて学生へのアドバイスの文章の内容は変えられている。

資料③ 卒業時共通模擬試験の分野別の正答率の分析

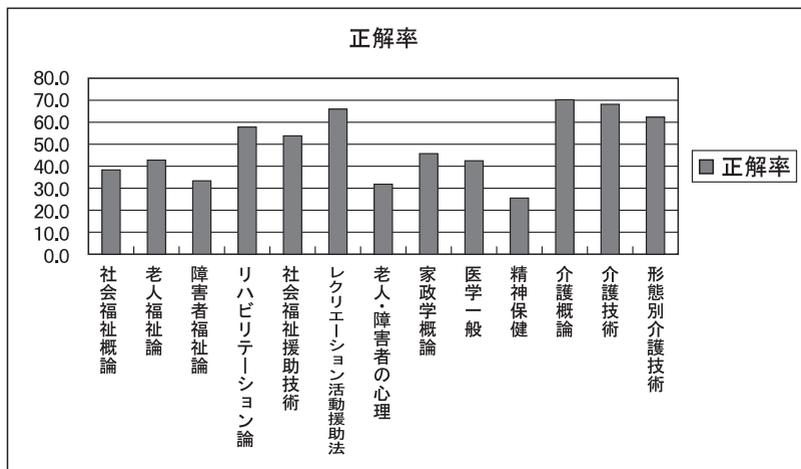
卒業時共通模擬試験の分析資料

2006年1月17日

松崎

分野別の正解率

分野	問題数	正解数	回答数	正解率
社会福祉概論	8	166	440	37.7
老人福祉論	10	234	550	42.5
障害者福祉論	4	73	220	33.2
リハビリテーション論	4	126	220	57.3
社会福祉援助技術	8	235	439	53.5
レクリエーション活動援助法	6	215	327	65.7
老人・障害者の心理	8	140	440	31.8
家政学概論	8	204	440	46.4
医学一般	12	282	658	42.9
精神保健	4	58	220	26.4
介護概論	8	308	435	70.8
介護技術	20	750	1,097	68.4
形態別介護技術	20	687	1,100	62.5
計	120	3,478	6,586	52.8



資料④

低い正答率の問題

分野	問題番号	正答率	分野	問題番号	正答率
社会福祉概論	第 1 問	53.1	老人・障害者の心理	第 41 問	64.9
	第 2 問	69.4		第 42 問	63.3
	第 3 問	60.2		第 43 問	60.2
	第 4 問	52.0		第 44 問	72.4
	第 5 問	55.1		第 45 問	50.0
	第 6 問	48.0		第 46 問	27.6
	第 7 問	15.3		第 47 問	21.4
	第 8 問	29.6		第 48 問	72.4
	第 10 問	36.7		第 50 問	68.4
	第 11 問	17.3		第 51 問	48.0
	第 12 問	40.2		第 52 問	65.3
	第 13 問	12.2		第 53 問	51.0
	第 14 問	26.5		第 54 問	22.4
	第 15 問	68.4		第 55 問	65.3
	第 16 問	87.8		第 56 問	40.2
	第 17 問	30.6		第 57 問	46.4
	第 18 問	53.1		第 58 問	32.0
	障害者福祉論	第 19 問		6.1	医学一般
第 20 問		28.6	第 60 問	56.7	
第 21 問		84.7	第 61 問	53.6	
第 22 問		35.7	第 62 問	43.3	
第 38 問		45.9	第 78 問	90.7	
第 39 問		84.7	第 79 問	69.1	

資料⑤

問題別の正答率の選択肢の分布

問題番号	正答	正答率	選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3	選択肢 4	選択肢 5
第 81 問	1	94	91	3	0	3	0
第 82 問	4	63	6	13	14	61	3
第 83 問	4	90	0	3	7	87	0
第 84 問	3	24	0	11	23	8	55
第 85 問	3	45	39	7	44	7	0
第 86 問	2	92	0	89	7	1	0
第 87 問	2	85	4	82	0	0	11
第 88 問	2	32	25	31	23	5	13
第 89 問	4	77	3	8	10	74	1
第 90 問	5	49	1	11	32	5	48
第 111 問	1	69	67	6	1	8	15
第 112 問	2	38	3	37	27	3	27
第 113 問	2	75	2	73	10	10	2
第 114 問	4	58	5	27	2	56	7
第 115 問	4	88	2	7	1	85	2
第 116 問	5	90	5	0	2	3	87
第 117 問	4	97	1	1	0	94	1
第 118 問	3	54	15	4	52	25	1
第 119 問	2	89	2	86	2	6	1
第 120 問	1	87	84	10	0	2	1

備考：網かけされている選択肢が正答である。この資料から、誤答がどのように発生しているかを知ることができる。

資料⑥

アンケートの内容

2005年度 卒業時共通試験を振り返って

皆さん、卒業時共通試験にも合格して、無事卒業が決まり、おめでとうございます。皆さんの努力で、今年は昨年に比べて多くの方が一回目に合格しましたし、不合格だった人も、もう少しの努力で合格に達する力を付けていました。

皆さんの努力の様子を確認し、今後の指導の参考にさせていただきますので、次の質問に教えてください。

1. あなたが卒業時共通試験について知ったのはいつですか。
①入学時 ②1年次の前期 ③1年次の後期 ④2年次の前期
2. あなたが合格点が6割であることを知ったのはいつですか。
①入学時 ②1年次の前期 ③1年次の後期 ④2年次の前期
3. 共通試験の具体的な問題や問題数を知ったのはいつですか。
①入学時 ②1年次の前期 ③1年次の後期 ④2年次の前期
4. 共通試験について試験に合格しなくては介護福祉士の資格がえられないと思いませんか。
①そう思う ②わからない ③そう思わない
5. あなたは6割の合格点をとることができると予想しましたか。
①できると予想した ②予想がつかなかった ③できないと予想した
6. あなたは共通試験について努力しましたか。
①とても努力した ②少し努力した ③努力しなかった
7. 秋に火曜4時限に実施した共通試験講座への参加について
①毎回参加した ②第1回だけ参加し、あとは不参加
③時々参加した()回参加
①～③の参加になった理由を記述してください。
()
8. 講座の復習や自習など講座以外に何時間勉強しましたか。
()時間
9. 共通試験講座について
a 効果はありましたか。
①とてもあった ②すこしあった ③なかった
その理由を書いてください。
()



- b 実施時期はよかったですか。
 ①とても良かった ②まあ良かった ③良くなかった
 どの時期がよいですか。希望があれば書いてください。
 ()
- c 実施曜日・時限はよかったですか。
 ①とても良かった ②まあ良かった ③良くなかった
 どの曜日・時限がよかったですか。希望があれば書いてください。
 ()
- d 講座での使用テキスト
 ①とても良かった ②まあ良かった ③良くなかった
 そのテキストについて、考えがあれば書いてください。
 ()
- e 講座の内容・指導方法
 ①とても良かった ②まあ良かった ③良くなかった
 指導方法等について、意見や提案があれば、書いてください。
 ()
10. 模擬試験の実施について
- a 模擬試験は、本試験の成績をあげるのに、効果がありましたか。
 ①あった ②少しあった ③なかった
- b 実施時期はよかったですか。
 ①良い ②悪い ③どちらでもない
- c 実施回数について
 ①多い ②適切 ③少ない
 希望の回数 () 回
- d 解説資料等は適切でしたか。
 ①適切である ②適切でない ③どちらでもない
- e 工夫すべきことがあれば、自由に記述してください。
 ()
11. 共通試験全般について あなたの意見・感想を記述してください。
 []



*ご協力ありがとうございました。社会人となっても、専門職としての知識・技術を磨き、利用者から信頼されるよりよい介護福祉士としてのご活躍を期待しています。お体に留意して頑張ってください。

資料⑦

学生アンケートの自由記述の内容

設問7-1を選択した理由

勉強しないと受からないと思ったから。
暇だったから。
必要なことだと思ったから。
参加しないと、受かる自信がなかったから。
自分が学習した事を復習できてよかった。
完全に毎回ではないけど、大事なので参加しました。

設問7-2を選択した理由

バイトがあったから。
バイトや、おそう式などがあったため。
自分でも勉強できると思ったから。
苦手科目があったため、参加。
都合が悪かったから。
1度参加して家でも勉強できると思ったから。

設問7-3を選択した理由

バイトなど。
ほとんどは参加したがバイトの都合などでたまに休んでしまった。
3、4回用事があったので休んだ。
問題をこなさなくてはいけないと不安を感じたから。
資料：実施忘れ。早く帰りたい日だった。
バイトがあったから。
火曜3限に授業の後なので、共通試験がどんなのか知っておきたかったため。
何をやればいいのか分からないし。不安だったから。
キャンプのでつだい。
たまには参加しないと本番が辛いと思ったから。
どうゆう内容か知りたかったし、受かるなら一回で合格したかった。
マークシートの練習と問題の内容を確認するため。
時間が合わなかったので…。
2回しか休まなかった。
もっと具体的な対策が必要と時間はいぶんが必要。
最初の方は、行っていましたが、後から行かなくなりました。
空き時間が長すぎたり、予定があわなかったこともあったがそれ以外は参加した。

時間に空きがありすぎる。1限と4限、4限だけ等。
出さないと思ったから。
バイトのない日はなるべく出るようにした。
あるのをしらなかつた。
起きられず、行かなかつた。途中から行つた。
やる日にちがわからず直前になつて知つたりしたから。

設問9 a - 1 を選択した理由

勉強する時間が取れたから。
勉強したところがテストに出たから。
勉強することが出来たから。
知らないことを知ることができた。
勉強になつたから。
同じような問題が出たりしてたから…。
試験講座でやつたような問題が本番で何問も出た。
ポイントをおさえられたし、「基そ」から学べてよかつた。
自分の為になつた。
過去問を解くことでポイントがつかめた。
問題慣れや、自分が分からない所に気付ける。
模擬試験の時より点が上がった。
自宅などでまったく勉強しなかつたのに合格できたから。
どういう内容かわかつたし、自分の自力がわかつたから。
どうゆう形式で出るのかわかつたから。

設問9 a - 2 を選択した理由

問題を解いていくことで、新しい知識が増えていきました。
試験に出た問題もあつたから。
テストに出やすいコトとかわかりましたが、先生によって意味なく感じたことも…。
同じ問題が出た。
問題のけいこうがわかつた。
その試験問題で始めて知ることもあつたから。
特に覚えた方がよい内容を教えてもらえたから。
事例の問題ができるようになった。
マークシートに慣れた。
実際書いてくことで少し暗記できた。
似たようなものがでたりした。

試験の雰囲気を知ることができたから。

先生の解説を聞いていたら、その問題が出たりした。

勉強の復習になった。

わからないところがわかるから。

勉強することで、今後、働くにあたって勉強しなければいけないという意欲が高まったから。

あまり参加できなかったので効果は少しあった様に思う。

今までに習った事を改めて学ぶ事ができた。

ポイントが出た。

問題集があればいい。

行かなかったから。

クラス別あるいは強制にした方が効果があると思う。

不参加なことが多かったため、わからない。

授業をちゃんとやればできる。

参加しなかったから。

でてないから。

参加してないので分かりません。

参加してなかったから。

もっと早い時間がよかった。

資料⑧ 平成18年度の取り組み 本年度の取り組みについて説明

卒業時共通試験 ～介護福祉総合演習～



卒業時共通試験とは？

介護福祉士としての2年間の学びの内容を評価するために、日本介護福祉士養成施設協会が卒業直前に実施している全国共通の試験で、試験の内容は、次の13科目になっています。

社会福祉概論、老人福祉論、障害者福祉論、リハビリテーション論、社会福祉援助技術、レクリエーション活動援助法、老人・障害者の心理、家政学概論、医学一般、精神保健、介護概論、介護技術、形態別介護技術

120問の出題に対して72問・6割の正解が合格の基準で、国家試験と同等のレベルの内容となっています。

本学も毎年、全員に対して実施し、卒業認定を72問・6割以上の正解としています。

1年間の予定

2006年

- 4月20日(木) 9:00-12:10 卒業時共通試験模擬テスト
1502教室 (平成17年度 国家試験問題)
- 9月27日～ 後期・毎週水曜日1限目「介護福祉総合演習」の授業で実施。問題集を購入し、問題の解答および解説を通して問題の理解を深めていく。また、実技の演習・評価も行ないます。
- 12月14日(木) 13:00-16:00 卒業時共通試験模擬テスト
平成16年度共通試験問題を実施
- 12月21日(木) 13:00-16:00 卒業時共通試験模擬テスト
平成16年度共通試験問題を実施

2007年

- 1月13日(土) 10:00-14:40 卒業時共通試験模擬テスト
平成17年度共通試験問題を実施
- 2月14日(水) 10:00-14:40 卒業時共通試験本試験
- 2月26日(月) 再試験(本試験で6割の合格基準に満たない者)



この1年間、がんばって勉強して合格しましょう！

Summary

An Endeavor of Preparing the General Graduate Examination in the Nursing Care Department

— The General Examination as one of Faculty Development Activities —

Hisami Matsuzaki, Noriko Oguma, Mitsue Shimada
Masako Shiro, Emiko Yokoo, Miyoko Yamamoto

All students in the nursing care department must take the general graduate examination. The result does not affect students' acquisition of the national license now. However, it is expected that each student must pass the examination to get the license in the future. We, professors in the nursing care department, educate and encourage them through various opportunities to become good care workers. The goal of passing the examination becomes more difficult year after year as a whole, for the acknowledged level of students lowers year after year. However, the knowledge of nursing care is critically important in providing appropriate nursing care. Therefore all the professors of the department determined to educate all the students in order to pass the examination. It is a hard object for the professors to attain. We must improve our teaching skills through our faculty development activities.

Last year we had many special lessons for our students to prepare the examination. The number of passing the examination improved amazingly last year, compared to the previous year. We will continue to improve our teaching skills to attain our goal, to make sure all the students pass the examination.